

○再整備・再配置の方向性

宮寺・二本木地区

(1) 地域対応施設

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
地区センター	既存施設（公民館）の活用を前提とする。 ※地区センターに移行しない施設は地区での意見交換を踏まえて活用方法を検討する。	1 宮寺公民館を地区センターとする案	【メリット】 ・既に支所機能があり、他の部屋の機能を見直すことにより、既存施設の活用が見込める。 ・地区の支所としての認知度が高い。 【デメリット】 ・敷地が狭く、複合化に際しては、駐車場等の用地を確保する必要がある。
		2 二本木公民館を地区センターとする案	【メリット】 ・施設が新しく敷地が広い ため、複合化による機能拡張に対応しやすい。 【デメリット】 ・宮寺・二本木地区の西端に位置するため、利便性が悪い。
		3 別の場所へ移転して新設する案	【メリット】 ・施設設置後、移転ができるため業務の休止期間が生じない。 【デメリット】 ・現地に施設がある場合、建設までに期間を要す。 ・市の所有地でない場合は、土地を購入する必要がある。
	統合しない場合の想定	【メリット】 ・対象エリアが変わらないため、最寄り施設までの距離や時間が維持できる。 【デメリット】 ・2館を存続させた場合、1館分よりも多くの維持管理及び運営費が見込まれるため、建替えや大規模改修（リニューアル）のための費用を確保することが難しくなる。	
	複合化しない場合の想定	【メリット】 ・現在のサービスは変わらず受けることができる。 【デメリット】 ・各種行政手続きや福祉、地域包括支援センター、自治振興といった地域に必要な機能のワンストップ化につながらない。	

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
小学校	既存施設を活用することを前提とするが、新たな用地取得も視野に入れて検討する。	1 狭山小学校を活用する案	【メリット】 ・宮寺小と比較すると児童数が2倍程度であるため、多くの児童が通いやすい位置にある。 ・敷地が広いと、施設の拡張にも対応できる。 【デメリット】 ・地区の北端に位置するため、宮寺地区からの通学距離が大幅に延びる児童がでてくる。 ・国道16号を横断することになり、通学の安全性を確保する必要が出てくる。
		2 宮寺小学校を活用する案	【メリット】 ・宮寺地区の中心に存在するため、宮寺地区の児童は通いやすい位置にある。 ・保育所と隣接しているため、相互交流が図りやすい関係にある。 【デメリット】 ・敷地が狭く、道路等に囲まれているので敷地の拡張が見込めない。 ・一部借地があり、その解消ができなくなる。 ・狭山小と比較すると児童数が半分程度であり、配置バランスが悪い。 ・国道16号を横断することになり、通学の安全性を確保する必要が出てくる。
		3 別の場所へ移転して新設する案	【メリット】 ・現状や課題を踏まえ、配置バランスに係る課題を解決することが見込まれる。 ・施設設置後、移転ができるため工事の影響が少ない。 【デメリット】 ・学校用地として広大な土地を取得する必要がある。 ・現地に施設がある場合、建設までに期間を要す。
	統合しない場合の想定		【メリット】 ・通学区等の見直しがなければ、通学距離（時間）が長くなることはない。 【デメリット】 ・2校を存続させた場合、1校分よりも多くの維持管理及び運営費が見込まれるため、建替えや大規模改修（リニューアル）のための費用を確保することが難しくなる。

		・児童数が減少し、学校の規模が大幅に縮小する可能性がある。
	複合化しない場合の想定	【メリット】 ・原則、敷地内へ児童しか入れないため、現行の教育環境が確保される。 【デメリット】 ・今後求められる学校と地域住民の連携強化や世代間交流の機会を増やすといった、複合化によるメリットを活かすことができない。

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
学童保育室	小学校の改修に合わせて校舎への複合化を図るとともに、小学校に合わせて統合する。	1 宮寺と狭山学童保育室を統合して小学校に複合化する案	【メリット】 ・統合することにより、施設面積が縮減できる。 【デメリット】 ・待機児童が生じないようにするためには、施設規模の拡大が必要になる可能性がある。
中学校	施設が新しく、新たな統廃合の見込みはないため、既存施設を活用することを前提とする。	1 武蔵中学校をそのまま活用する案	【メリット】 ・既存施設をそのまま活用することができる。 【デメリット】 ・特に問題はない。
保育所	現在の場所での建替えの他、移転についても検討する。なお、移転先については、小学校隣接地も検討する。	1 宮寺保育所を活用する案	【メリット】 ・新たな用地取得が不要である。 【課題等】 ・工事期間中、施設の休止や代替施設が必要である。 ・配置バランスが悪く、他地域からの通所が難しくなる。
		2 二本木保育所を活用する案	
		3 別の場所へ移転して新設する案	【メリット】 ・工事期間中、施設の休止や代替施設が不要である。 ・小学校隣接地に移転できれば、相互交流が可能となる。 【課題等】 ・小学校隣接地に移転できない場合は、相互交流が難しくなる。 ・小学校の移転が前提となるため、見込みを建てるのが難しい。 ・現地に施設がある場合、建設までに期間を要す。 ・市の所有地でない場合は、土地を購入する必要がある。
地区体育館	既存施設の活用を前提とする。	1 宮寺地区体育館を活用する案	【メリット】 ・既存施設をそのまま活用することができる。 【デメリット】 ・特に問題はない。
老人憩いの家	施設更新は行わず、地域の自治会等への譲渡を検討し、施設機能は、他の	1	【メリット】 ・譲渡することにより施設面積が縮減できる。

	地域対応施設に移転する。ただし、高齢者の利便性が著しく低下する場合は、一部施設の継続も検討する。			【デメリット】 ・ 高齢者の利便性が低下する可能性がある。
--	--	--	--	----------------------------------

(2) 広域対応施設

施設名	再整備・再配置の方向性
博物館	機能を維持し、長寿命化を図る。
老人福祉センター	当面、現状維持とするが、現在の機能を他の施設に移転・統合することについては継続して検討する。
勤労福祉センター	施設の用途変更や民間への譲渡・売却を検討する。
障害者活動センター	老朽化に伴い施設は廃止し、代替施設については可否を含め別途検討する。